

0



10



20



30



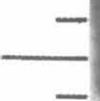
40



50



60



70

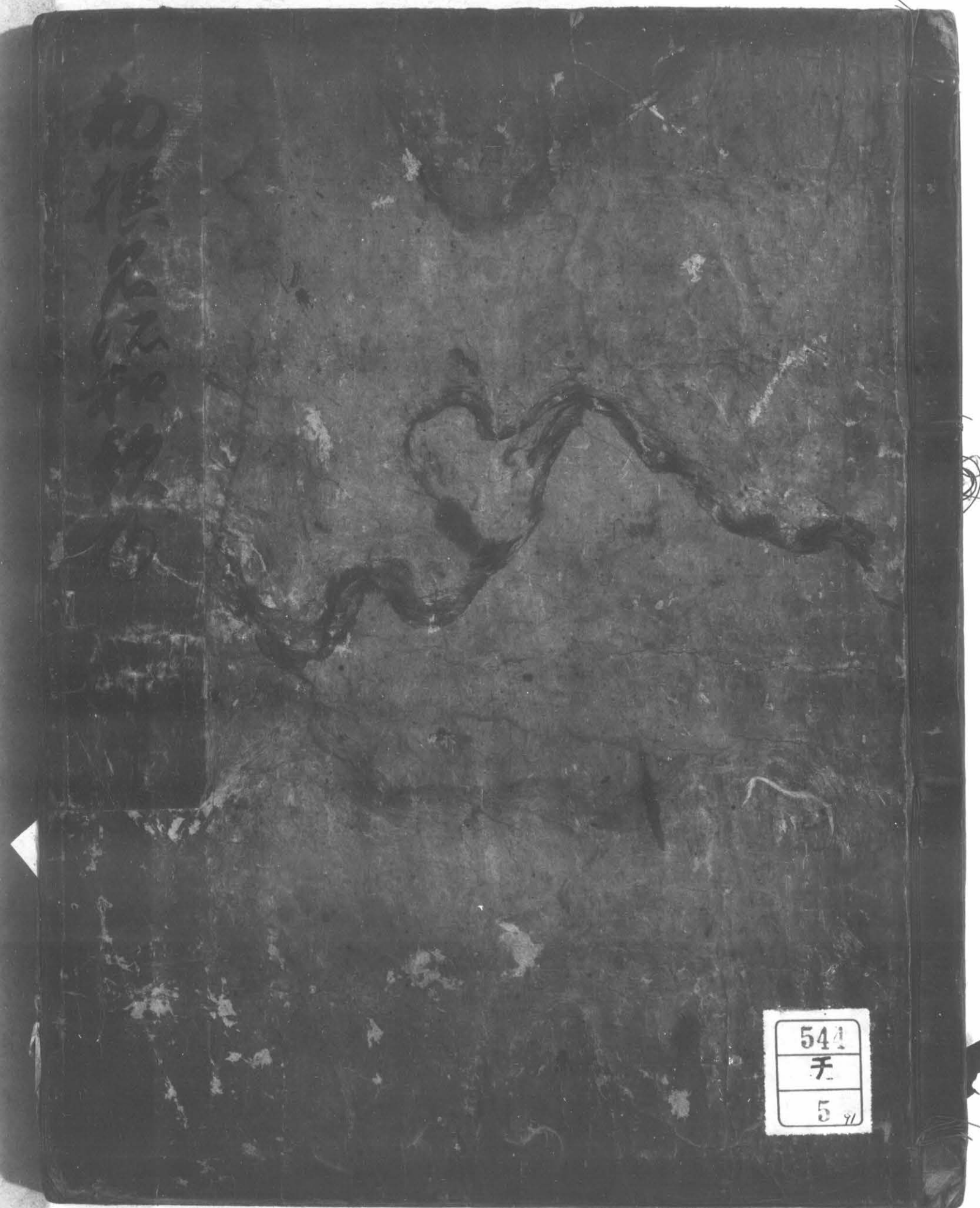


80

150 cm



SEKISUI JUSHI



541
无
5 77

544
子
5



上

目錄

世海 世浦 世濱 世江 世磯 世洲 世崎 世津 世湊

世泊 世嶋 世離 世沖 世堀 世野 世原 世牧 世森 世林

世一 世二 世三 世四 世五 世六 世七 世八 世九 世十

附宮

附社

附寺

ト

世海

倖勢海倖勢

後漢十三

倭装のうき女の下をくぐりぬぎて、
うき女は、うき男の顔をみて、

續
いまだ海の港を清くしつゝ舟をかくれを考へざる人 黒王

伴豆海
伊豆

五
いづれより白浪のあはれなりとて人かたをうらむ

平南海 情磨

月又玉

多なきは此の奥津よりかきやまを鳴祢に

生田海棧八郎

子にては人の心のやうにあらざるに如く
 并乳母

湖海
近江

新勅

ふの海や産たきにくみせりしものまの産物なる小

三床海 未勘國

とこれ海の秋方にも浪方とて竹の中よりあふる家

ち茅渚海 和泉 和泉郡

ちぬの海けきの小松村よりて秋をさる人のこゑ

香取海 下総 毛羽郡

大舟のかりの海よりあふる人の物なりとて

興謝海 丹波 余所郡

思ふとくそききしるは海のめは橋立をさるのせ

た馬津海 河津 西生郡

名はたきぬは海の奥はさるるかたわやもて海

難波海

日那 催馬承昌年

梅花いほきりあり難波の海よりあふる家相

如古海

住吉郡

みこれ海のあはたりありしは海の奥は白波

奈呉海 越中 射水郡

あめりけいも吹くは海のあはれ物なる清なる

みこれ海は塩のこいありしにわくとしは海は見え

名坂海 常陸

いしらる名きし海の玉藻よりけい後されぬたき

武庫海 河津 武庫郡

いこれ海の小きくありしは海はたけりあ波より

平海やといはれりしは海はふくの昔のいあきと思ふ

年婁海 紀伊 年婁郡

萬二十短分

まふのひはあやも　うらとく　^て感ぜんと

力猪石野海

河道那

妖舟

大海はあゝと嘆き志ありよりなまじい海は舟とじりまて

の能登海 能登

月
 此の處は物より海土に
 火の焚きききせ月約そら

不生海

伊勢

洞玄恒當國卜三

日
 其の海よりまづききりてやうにめつたをに温みたりん

出雲

月
 新勅十二
 一の海に浦の子鳥をふけりてはつた海のおとやめを口アミ

其のまゝに子愼のまゝやくらん
 愼道

興海

陸奥

新古
り称みたる公のに井海よき不いのをみよひなり
金家

主 松浦海 肥前 松浦郡

事々志ひて毎々人々をけしめりて物さ月いふは

け
氣比海

越前 敦賀郡

日
字の海はよくわたりふしうして、あつ海の釣みへ

布勢海

越中

謝の如く

玉ふけいづのあやふき海のとちつて玉ふけいづの
魂

越海

越前中後三國同節々

この西は、あいの浦に流れて、いさうに重なり、
留村

Abraham Lincoln

其のふに越希と云は後の一跡越中し

近江

15

又後は横にし
あふれあつる地のみまにやあらう
おとめやちか

後撰
 ぬれ水田のうのうのうをうううん
 いふふふ田のうのうのうをうううん
 高浪よ我身と打あはれん
 後人
 文

一志浦 伊勢 一志郡

千十町
いも鳩やしらけ浦のあまいたるるぬ袖いぬる物ゑ
新井
ふとやいそひんいせぬや一志のうけありのてきに
後
道因
は品

礪圃
那不審

月^万より光を清く氷雪のうしろふ舟おと我い

石浦 純倅 海部郡 倅藏 石 高統

[illegible]

礪浦
越中

日七
あつうは朝あのもうきうその浦をいそいでかん

に錦浦出雲

名はたきうきのうをきていふるあまのまをり
は師下 後

二十符浦陸奥 名取郡

カ、今、このうき世を、あはれはてしなく、秋のよ、月橋を仰

韞浦
脩坂

Handwritten signature or name in cursive script.

鳥羽田浦
伊勢

郭公とてこの浦より海の方へ君代えりしを

床浦
未勘國

度々との枕乃るは慍々たる地を床のうへ
 相模

ち茅渚浦 和泉 和泉郡

リッた貝をいふからぬのふねに袖はきとる

千板浦
近江

千十 君代のものいさし浪をくらひのうばにたて置けり 香取

知田浦 紀伊

万 ぬきしらきいさしうらなは浦のおく舟興なるを

千賀浦 筑前

千枝浦 未勘四

悔れのならぬのころ 公よりぬ後いさし味を

若浦 紀伊

わづらひ極むらうとていふもいふとていふもいふとていふも

新 しのふねをいさしき見ひらきいさしきいさしきいさしき

秋 秋の海や月のわづらひのふもいさしきいさしきいさしきいさしき

わづらひのふもいさしきいさしきいさしきいさしきいさしき

上 形見浦 紀伊

万 みのめいさしきいさしきいさしきいさしきいさしき 後人

香椎浦 筑前

いさしきいさしきいさしきいさしきいさしきいさしき 大御

早浦 駿河 廬原郡

我れいさしきいさしきいさしきいさしきいさしきいさしき

葛飾浦 下総 葛飾郡

かたみさきの浪はらけにみききいさしきいさしき 香取

香取浦

夏衣のいさしきいさしきいさしきいさしきいさしき 香取

出石

万 いかんいさしきいさしきいさしきいさしきいさしきいさしき

紀伊

万 夫のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

夏身浦

日土 夏身浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

鳴戸浦 石波

新千土 鳴戸浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

長門浦 長門

万三程の 長門浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

い 武庫浦 標津 武庫郡

日 武庫浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

日 武庫浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

日 武庫浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

日 武庫浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

宝浦 橋磨

日土 宝浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

の 野鴨浦 出江

千 野鴨浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

野坂浦 肥後 葦郡

万 野坂浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

に 大輪田浦 標津 八郡郡

日 大輪田浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

大波浦 伊勢

松十 大波浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

新 大波浦のうみわたの浦より浪のきつゝあゐる

生浦

梅あさけのう浪よりよはぬすけの衣 集

大浦 遠江

大浦 大浦のう浪よりよはぬすけの衣

近江

大浦 大浦のう浪よりよはぬすけの衣

幸生浦 越中 村取郡

物うにもおのり 大浦のう浪よりよはぬすけの衣

鳥咩浦

持統天皇御祭國は幸の村都は道は後傳る

大浦のう浪よりよはぬすけの衣

真野浦 新津

大浦のう浪よりよはぬすけの衣

大浦のう浪よりよはぬすけの衣

出江

吹雪のう浪よりよはぬすけの衣

真間浦 下総 葛飾郡

大浦のう浪よりよはぬすけの衣

真長浦 近江 高島郡

大浦のう浪よりよはぬすけの衣

麻利府浦 周防

大浦のう浪よりよはぬすけの衣

松帆浦 淡路

大浦のう浪よりよはぬすけの衣

初和
こゝろとまじりのうしろきんぐらうのめいりたて家

板橋
ね賀浦 諸渡
ね賀のまじりうしろきんぐらうのめいりたて家

万
君をゆきまじりのうしろきんぐらうのめいりたて家

日
け氣は浦 熱衣
うしろきんぐらうのめいりたて家

金
明
二見浦 伊路
うしろきんぐらうのめいりたて家

ち
橘磨
うしろきんぐらうのめいりたて家

ト二
ね江浦
うしろきんぐらうのめいりたて家

千
吹飯浦 和泉 日根郡
うしろきんぐらうのめいりたて家

天
布勢浦 越中 針水郡
うしろきんぐらうのめいりたて家

日
あまのうしろきんぐらうのめいりたて家

あまのうしろきんぐらうのめいりたて家

あまのうしろきんぐらうのめいりたて家

あまのうしろきんぐらうのめいりたて家

續子吟

美代のひをうてはあむむにのうにねそこたりき
相模

越路浦
越後
古志郡

爲多卿佐渡より下向の時越後國寺泊の怪女

初着の欠け。

玉葉
物多うらうの白鷺立ふゆいめとよりけ

西溪香浦
梅津
住吉郡

百三
ワタシは、
後援
あまのうに
う前
王

後援
いづのあきふうのふしつそのもとに在るらん

王子
長三信
八郎

孝全浦
荒原种

續五九
明よりあつたもののふらるるを
あつたもの

阿波手浦
尾張

金糸
あそこのあまはひなはくやとよきけ
唯光

千十二
 ト三
 ちやうく彼ののりまいあやと何それ海にあましくとく静愛
 利那十二
 祇意あそのうのうき貴ひやくけきもぬく彼の
 後には
 八年前自

阿古本浦伊務

陰元
あつたあつたのあまなりやういふはもとてさゆ浦也
津守
四四

有磯浦
越中
村水郡

金つゝめりその浦の浪を馬よきに鳴るをく海人
人へをたひめりをたふせし浪のよきそは戸のれ 倭忠

明石浦 情磨

秋
 くらりあーの浦のた原は波をのこそふると知る
 源
 くらりあーの浦千鳥波のたよりくちきく
 為寒
 くらりあーの浦せにひつあーは月をようたれ
 後損

阿比浦
未勘國

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの 三信 隆

華若浦

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの 清人 隆

三津浦 西生郡

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの 業平

三犬女浦 淡路

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの

三穂浦 駿河 鷹原郡

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの 文

三石部浦 紀伊 日高郡

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの

三熊野浦

年妻郡

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの

海松目浦 壹岐

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの 西國 入 前太 守 氏

三鴨浦 多摩郡

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの 好忠

美宇浦

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの 馬

敷津浦 佐吉郡

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの

あまののちのちのまゝにあらはれりたるもの 後

溪坊庫
近江
滋賀郡

坂谷
 さよ深きまにけりやこゝろは遠きなりけりとのう辰
 柳さくらのしを鳴まにぞりぬりきの浦の
 せりきてみきり川とせり綴るのう波をうねり
 志望のうねりぬのうに夕浪を立ぬ
 良程
 八景
 名作
 不実

高忻濱

和衷

大島親

大俣のたうの濱の松を枕よめとて
歌一冊

在秦古漢

天津

住吉郡

[illegible]

長柄濱

西生郡

美のけもの大に駒とていせを橋とてとてふは佳思

長洲濱

酒造部

萬のあはれをいふはたふさふさ
てふ人

長瀨

恒壽

君^ち代いさうにめでたき世のまにけしきふくしを

名草濱

紀傳

名義

後十
新
これいふことなす
千鳥の巣いふよりきつ海に
人

トモ
め^礼
ゆるみなり世治まほふに之の漏を尋らぬ。後成

有度

駿河

有度郡

はは
うとあまのえきしうてさくしゆのえきしうに
答

和
與津濱

和泉

和島郡

君を好むもの鳴りの音はさうめと云ふ

大渡河

伍拾

人との交わりは素人の如くは浪の如く
後藤

陪膳演

市

號
二
時
中
の
物
々
大
酒
の
法
士
の
心
意

大時濱

土佐

五
大正九年三月

倉無瀆

豐采

見 けきいふめいめい様と申すなりけり

黒戸濱 上総

玉 海老もあつていづる人々を捕ふ所の所 春標羽

真野濱 豊前

五七 國のまじりあつていづる人々を捕ふ所の所

近江

新後三 吹飯濱 和泉

時いせけのめいめい様と申すなりけり

五七 吹上濱 紀伊 名寄 海邊 西郡 三

吹上濱

紀伊 名寄 海邊 西郡 三

た 坂内の上にある白菊の花のめいめい様と申すなりけり

新後六 月とていづる人々を捕ふ所の所

ト六 新後九 坂内の上にある白菊の花のめいめい様と申すなりけり

新後九 坂内 紀伊

五七 行吉のめいめい様と申すなりけり

古坂見濱

新後十二 坂内の上にある白菊の花のめいめい様と申すなりけり

新後十二 坂内の上にある白菊の花のめいめい様と申すなりけり

新後十二 坂内の上にある白菊の花のめいめい様と申すなりけり

有磯濱 越中 紀伊郡

新後十二 坂内の上にある白菊の花のめいめい様と申すなりけり

明石濱 播磨 西郡

五七 坂内の上にある白菊の花のめいめい様と申すなりけり

飽菩濱 紀伊

朱のくやめられ演の意具然と一十年のめり

日三 意津濱

草花西鶴行若平芸津た右送來飽不足鴨

泉の神の別とてゐてめいの演は座のまゐり

寺岡濱

豊永

とも國のまゐる演はへりてゐる初久人丸

み三津濱

松津

西生郡

大まのうけ演はる意具つゝめりてゐる

はに

滋賀縣

りんの初めとてゐる公なるまゐりてゐる

御熊野濱

紀伊

牟婁郡

新宮御所

その原のまゐるゝ大海の濱のまゐりてゐる

入江本
太田

一滋賀濱

はに

うばやまの濱はよりりたるまゐりてゐる

信濃濱

越中

針水郡

うばのまゐる濱はよりりたるまゐりてゐる

丁位若濱

松津

信濃郡

うばのまゐる濱はよりりたるまゐりてゐる

市田濱

石見濱

石見

いゝまゐる濱はよりりたるまゐりてゐる

後人
志願
結

か香椎濱

筑前

時にせつて成ぬゝけ方堀のまゐりてゐる

小野
光

下六後 津田細江 橋

凡あけ波たじむる福はなほさうさうあふ
後古 負ぬはのりさの成にうたぬさる一歌う
は古

下五 金 桑名江 新中 新川は若郡を回る

ふささむく鳴りまけにうまうしうりきう
金 ぬきまのいぬあかりうらう福あて人さる
橋下

下五 雑波江 橋津

ふささむく鳴りまけにうまうしうりきう
日三 雑波えのあかり福のいぬあかりうらう福あて人さる
橋下

後六 流江 伊勢

そこの海はのりさの成にうたぬさる一歌う
後六 山吹 宇治

下五 巨椋江 山吹

下五 大くの入にむくやあてのうらう福あて人さる

日三 草香江

ふささむく鳴りまけにうまうしうりきう
日三 真間江 下流

下五 朝ふけのうらう福のいぬあかりうらう福あて人さる

金 真野江 出江

朝ふけのうらう福のいぬあかりうらう福あて人さる

後六 佐江 橋津

ふささむく鳴りまけにうまうしうりきう

下五 三鳴江 鳴上郡

ふささむく鳴りまけにうまうしうりきう
三鳴江のむえのうらう福のいぬあかりうらう福あて人さる

續恆樸十三

乃以爲之知家者管其爲人者也乃其基後

水江
丹媛
与附郡

新
あ
のきく入はのえのえけふとミエに物あり
今

飛騨細江 飛騨 葛城郡

五十二
あまうひのりそいのたふしはいふやうに探ねて

丁里雲江
標津
佐吉郡

日
 此のほかに松原を以ては、大君のまゝと
 ち
 まう

おまのいふことのけあつてゐるやれぬ

教をてよに任の^ハ世を^ハ治るを^ハまに^ハむる^ハ成る^ハ後

酒佐江

あらじやまけ入のあつそ松はまつうといは独のこ

十六 儀

三富鳴礪
淡路

元長云
 風さゆきゆふにそけ村のまゝおの浪のふりなり
 西三位
 季経

雄鳴礮 陸奥

松子と一箇の衣のきよけいゝゝあふそまの袖へ
式部

主
松鴻磯

羽衣
春鴻の破しきちやめしよのさあめう密に痛

二小餘後礮相模

あふきけりありてあはれなるものなり

指出礫
甲斐

た七
志のいふてけいしひの君の代をやあはれく
後人
うゑ

小竹鳴磯石見

箱崎の口也城等の地多はてはるが平國なるもの

海はしほく松樹の西に望みしるまはる黒國陸奥の

珍 ^珍 しく世にあらはるる箱崎のわのふもやうにいふね 重く

二万玉葉 ^{二万玉葉} 富鳴崎 淡河

あまのいそ海にたき海をへるまはるきんぎん千貞

と小黒崎 陸奥

とらちまのいのちのふくむ都のたけのふくむと ^{淡人}

雄鳴崎

松崎のふもやう崎のふもやうのふもやう海士 ^{本冬松}

と福岡御崎 松津 八郡

外はくいの山崎ふくむ海にたきふくむ ^山

か唐崎 竹口 ^{志賀郡}

上 ^上 海はしほく崎はあまのふくむの海にたきふくむ

みきすふくむ海にたきふくむ ^松

鹿鳴崎 常陸 康鳴郡

あまのいそ海にたきふくむ ^更

金御崎 越前

ふもやうのふもやう海にたきふくむ ^日

秋崎 松津

あまのいそ海にたきふくむ ^日

た多松崎 越前 月郡

あまのいそ海にたきふくむ ^日

龍崎崎 松津

とらちまのいのちのふくむ ^日

室戸崎 淡海

新和4 淡海のしろくろと秋のうらわ浪をさめぬとき

付西の海幸崎まて所作三教式勅念土別室戸崎とありあ海幸

の野鳴崎

万 鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

千 鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

は

新和5 鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

安房

万 鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

生崎 兼平

日七 鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

ト六 松崎 城

鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

五二 小嶋崎

鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

五七 小菅崎

鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

安礼崎 冬河

日二 鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

寺 海見崎 騒河 唐平親

日三 鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

由良崎 紀伊 海戸親

日七 鳴きふらふとてうらやましくなりてるなり

^{に九} 朝日ヶ丘 秋の海はさう海士をさへ
 海士をさへ

三編所

火板

城上親 北海道
弟三の千代次郎と申前より
の決うと申すノ事にて之を合

の決るに非ざるを以て

日三
高きよりなるものより高きよりなるもの
日七
ものよりなるものよりなるものよりなるもの

始見

いづれとみえのまき秋舞の月やおこるる夏
上

御輿

相損 益倉那

日た
かまへのあはれにのいふくの君くあをむらむ

御浦崎

御浦船

夢の見るべき所をいふやうに

水尾崎

竹石 高鴻執

Effect of music in character of the

六 繪鳴磬 溪河 津名郡

六 繪鳴齋

淡河

津名郡

その時、おのゝまをきこて、あゝ海鳴り、雲より歌隆

世九津

仁高津

將降

西生郡

久方^トあいのうら若母をとりたるいあせり^{角丸}

雞波津

郢

た
ふたにやうな花をうり海げんをうり花

万
 事ふは人の心をわけてわづこもふからき
 母氏
 美人

仁壽

江

志賀郡

我今悔之矣。予之志於此也。以是予之志也。

朴濤

人

月 せうくたえらにきてやせにむねの舟入る

あ 秋田津

伊豫

百葉に飽田津の舟

日 ちきよあふのあまにうらなれどしをけしき

あ 碓氷津

武蔵

碓氷郡

日 ちの津より舟のりといふ所なる舟なり

み 三津

根津

西郷郡

月 朝あきい海に渡りてくうの松原海に

日 ちのこのあふくをわけておるもくをわけて

日 白のこのあふくをわけておるもくをわけて

ち ちのこのあふくをわけておるもくをわけて

一 敷津

住吉郡

舟あつてくうの海なる舟のりといふ所なる舟なり

ト六

滋賀津

出

万 ちのこのあふくをわけておるもくをわけて

日 ちのこのあふくをわけておるもくをわけて

堀津

淡路郡

日 ちのこのあふくをわけておるもくをわけて

四十 漆

揖保漆

播磨

播磨郡

ちのこのあふくをわけておるもくをわけて

ちのこのあふくをわけておるもくをわけて

か 懸漆

丹波

ちのこのあふくをわけておるもくをわけて

上 興謝漆

丹波

新修拾三

松山より大分まで海を渡る人も少くも

日
休むふとの事を明かに成ふと思ひあつたり

油漆

無不 式云為羽

新編
こさる袖の文を井あしと海とのまやふくも合ふ家長

た 雅波漆

標津
西舞郡

千々
痛みのあはれあのおのどある清よあるあを

胡氏
重保

为猪名漆

うもほゆるいゝの清ききりあがり麻の毛もちよしのねを^{はる}_を摩信

凡さくらと藤のふりまはるはよみ鳥鳴之 題仲

苧生漆

伊豫

いせの海は夢の漆といふにけり人を恨てそり
友義徳

尾野清

延壽式尾野

續にハ松竹十三
卜元 恒世村 蔵

漢人志

下
八
十
漆

此

八雲集抄云、地方々々、湖半の清有、但そいふ所と、清多

心

いそよはにきてわかれあふみのうの清くはさむく 墨

由良清

紀伊 河部

赤城のゆり藻のふき玉さしめいなる長方

水荳豔漆

追

あまのうへいふくさのふるに浪立ちたり

白蔘漆

遠

松井公庵の筆で書かれた「おのふを鳴らす枝のしぐさ」

卷之六

此良藥

卷

滋陽郡

我母の心を二きくは母の心をさよほかり

平泊

唐琴泊 脩永

波のよのけさうとさきゆるまはたやめたるらん 安信 法行

韓泊 飯前 志摩郡

りともゆりのけら波たぬいあせたりくさぬ日あり

の地衣泊

凡あけんむらち浪いふのけらゆりあせたるらん

明石泊 橋磨 明石郡

ふき勢ときうすうそ 時るくあけ泊あり

按察使 云道

三津泊 橋津

大伴のふのけり舟さうらけりさう越ゆらん

平嶋

伊勢嶋 伊勢

いし嶋やめけくたのけのけらあせりあせり法浦

伊良良嶋 志摩

うきしれ命をけり浪あせりこ嶋の玉とけり志く 麻生王

あやさいこ嶋くみれいのくむあき濱へ

家嶋 橋磨 相保郡 有神社

いよはのきさうありあきとあきさきさきあき

祝嶋 周防

あけ嶋のくさうのけりあきさきさきさき

妹々嶋 紀伊

いよはのきさうありあきとあきさきさきあき 後人 云

二 富鳴 淡路

五 山鳴 海鳴 夏鳴 秋鳴 冬鳴 春鳴 夏鳴 秋鳴 冬鳴 春鳴

雄鳴 陸奥 文藏

秋の月やどよめく原の草の音の初め 家隆

河鳴 松澤

あゝいそいそと河鳴のあけのけしき 業平

香鳴 能登 能登郡

万 海鳴 海鳴 海鳴 海鳴 海鳴 海鳴 海鳴 海鳴 海鳴

底鳴 紀伊 日高郡 常陸麻郷郡 有同名 常陸

三 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

神鳴 脩中 田郡 有神社

神鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

紀伊

五 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

加利鳴 長門

鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

益鳴 豊前

鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

益鳴 豊後

鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

懸鳴

鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

山鳴 宇治郡

鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴

河

西生郡

後家

同

有沙社

人分

墨圭



B

This image shows a blank page from a document. There are dark vertical bars along the left and right edges, likely representing the binding or scanning artifacts. The central area is white and contains no text or figures.

范蠡卿子枕戈載脩中國仁人雲山賞與之

١٤

大伴

又安藝國

佐成

紀傳有同名

戒色

子藏記

能宣

小竹嶋 石見

日七 夢ののしほきしきあきさき嶋の破る海のとくあきめ

吉備嶋

日八 屋まののきいの嶋あきさきしほく小嶋あきさき

雪嶋

日 雪嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

三嶋

日 三嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

日 三嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

肥後 華山

日 肥後の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

水嶋

日 水嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

美豆小嶋 陸奥

日 美豆小嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

都嶋

日 都嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

志加嶋

筑前

連年

日 志加嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

日 志加嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

三嶋

日 三嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

日 三嶋の若りしきあきさきしほく小嶋あきさき

下
わは戸めをぬきぬくやうな公田と

酢醜

星の海の方には、あいのこも、そり思ひあふ

平三灘

大鳴灘
脩前

續千十六
めまともな人か、
鶴のまてを喰ひし
資事

葦屋瀨橋

河の畔をの場やさうあきしなけり
まけり 業平

忠見糸い比治奇瀧備前

まの舟でせうきありむらさきのあざとよしうる山
川大橋

平興

天津守貞
校澤
仁吉郡

けくちのりのお子で満ちけい家持と成さうと
 4美 後 ちり

鳴尾奥
武庫郡

是より都のふけのちて及てるもの奥よりある

鳴海具尾張愛智郡

續千代
夢りてい神をぬくらんよきにありの白藤白波
歌雅朝

鳴門與阿波

後古
いづれもいふにふたれ
思はるゝそふくも
思ふ恨を
平時之

御前與
攝津
武庫郡

けりともまの奥とみせし中井に海ふあまは初み
頼實

主
松浦奥
肥前
松浦郡

新 さいしちめいののりきまうしとてしるし 新隆信

明石典 播戸 明石郡

千 ちのりかのもてあつちめつれとてしるし 後志

葦屋典 横津 志原郡

新 けのりめとてしるし 新 けのりめとてしるし 後志

三徳典 駿河 盧原郡

新 駿河のりめとてしるし 新 駿河のりめとてしるし 後志

平上塩竈

新 駿河のりめとてしるし 新 駿河のりめとてしるし 後志

新 駿河のりめとてしるし 新 駿河のりめとてしるし 後志

平六野

石田山 山城 久世郡

山 山のりめとてしるし 新 山のりめとてしるし 後志

千 山のりめとてしるし 新 山のりめとてしるし 後志

岩花小野 乙訓郡 愛宕 一丈

山のりめとてしるし 新 山のりめとてしるし 後志

磐余野 大和 十市郡

山のりめとてしるし 新 山のりめとてしるし 後志

伊波世野 越中 婦員郡

山のりめとてしるし 新 山のりめとてしるし 後志

生野 丹波 矢野郡

下

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

日十

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

いそがねらういそがねらういそがねらう

片思野

いそがねらういそがねらういそがねらう

下元

将路小野

万三長年

いそがねらういそがねらういそがねらう

河内

伊豫

いそがねらういそがねらういそがねらう

陸野

近江

いそがねらういそがねらういそがねらう

陰野

伊豫

いそがねらういそがねらういそがねらう

精鈴小野

大和

いそがねらういそがねらういそがねらう

神楽小野

山城

いそがねらういそがねらういそがねらう

五十六
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

吏部

河内

吏野郡 延表式片野 吏野

[illegible]

蒲生野

道

蒲生元

下
上
五十
横野 上野
はたふふは きのくに 春をうけんと 春あり

横野

上野

江野

歲

あやなるとして知るゆゑに
た高園野 大和

大高園野

大和

[illegible]

新

日

日

同
サニ

17

四

五二

五

8

4

五十

一可

鑄

拾

新

67

一

又

子

也

あ

3



五

多藝野 義農

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

高松野 大和

馬のききしるるたまたまのききしるる

まをばるるのききしるるたまたまのききしるる

多胡入野 上野

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

平松野

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

立野 武蔵 大和平群郡有田名

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

高野 紀伊

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

執摩野 近江 田原

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

武蔵野

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

あつたけと清く青く空のふちをなぞる

紫野

山嶽

愛宕郡
船曳小

此以補生種有因矣
萬葉額田王牙是也

万葉額田王牙是也

一孝院御時長保三年夏の氏世中さうく作
れぬ如きの今宮と尸神を好て祀りて尸
馬よりぬきぬきありけ。今を白毫寺の

白州のよきところをとりて祝をいふ雲の野は 長徳

内大野
大和

互
玉まげらのあや野とて朝あすらんをきき

今施野

日本記
延武式
宇陀
宇太

日二
 毛衣をききまけて墨也うたのむ野へむねり
 日八
 うたのの秋露志のきりきり書にきりきり我はきりきり真人
 後撰
 宇たれハ耳ア山うふふふう喚ふふふふふふふふふふ

宇祐郷 近江

たす
あきらめられぬのよりを
あきらめぬけい

力
猪名野
棋津

万七
 志ありよりあふけいめまひりまぬ家いりて
 後拾九
 青よりみぬのさるのりたへきよやうりり
 の野上
 美濃 不破郡

の
野上

美濃 不破郡

東 野々子 春より

大和

新に標六
おとていふもたは上の雲のひかりを
入道
太下

仁大藥野山藏

りてやねる人々を夢めしむるあり

大原野

拾九卷
おのつやふしに
おのつやふしに

東三策
卷之六

大香野 大和

五
原もよみまゝにわづらひ竹々りきき虎老人とい

栗栖小野

仁孝人

日六
は、
後
み、
せ、
う、
る、
に、
ひ、
く、
成、
し、
う、
ら、
ま、
れ、
と、
の、
花、
の、
焼、
く、
長、
方、
大、
伴、

六

みませうなほく成るるをれとの病の焼く 長方

百濟野

楊津

百濟郡

今、野、花のち、物、まゝと、此、一、等、の、まゝに、久、し。

八田野

越部

敦頤

厚みのある葉くわちふねの管さくせん
人

野田野

出

野洲郡

君は酒をよみに糖やのまんをわけて

真野

大和

倭上邦

下

物より大なる三まげの足控あぬ海士朽そてゐる 題伸

不替野

山城

和乐郡

みのおさのあとも清きより大文庫さめり

石橋小野

大和

山邊郡

布魚野田下

其のそつろふが病をいふに
 人

布留野

やきまゝにわがやうにうらまへてくれぬか 定通

伊をいふ所を極むるに美いとはあらず

そのうちを所をて一紙ありにのりて成

初報
下いふそちぢやあひくやうにわしるむに四通

伏見野

歲

寧海郡

りそふのきんぎょとく

深草野

うきやれおの橋一筋のわたりに雲霞をた

二 巨勢

大和

安武式巨勢 万葉抄也

河上の津の橋はくさくさたあまのつらき

越前野

只越前野

むすのこはあは野のゆゑにむすのこを

秋津小野

うきやれおの橋一筋のわたり

秋津

うきやれおの橋一筋のわたり

秋津はあまのつらき秋津のむすのこを

淡野

淡路

ト

うきやれおの橋一筋のわたり

淡澤

淡澤

信濃

うきやれおの橋一筋のわたり

阿波之野

未勘國

うきやれおの橋一筋のわたり

阿多

大和

うきやれおの橋一筋のわたり

淡羽野

信濃

うきやれおの橋一筋のわたり

あまのつらき秋津のむすのこを

粟津野

近江

滋賀郡

うきやれおの橋一筋のわたり

めろわらふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

化野 事勢國 日本に属す

河のわらわらふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

あふれまのふもてめやうきあはれ今 頭補

五七
 何んぞあはれとてよりふにやいふは口またし月見たり
 人野とまのしやうやうのふしの舞て中ふたれは

文城野

陸奥

文賦

文彦ひろあゝの山はあそりみ川と徳と君をまて
 冬よりひささとしせさきけふありあゝあゝもあせり
 こ萩原もさきあゝさきけふ麻やこゝろの月よ鳴けし
 けりてあゝさきけふさきの花の文く山の勢く

後人 文彦
 思ふ
 敦仲
 後頼

御熊野

沈氏

年壽如

食
くまの所はすくきつらむやう乳人
義豆野 山城 乙訓郡

義豆野

山

乙訓郡

夏なつふきんのふりかきでまのふき水の月夜長
引馬野 冬河

引馬野

卷四

^{上六} 巨 むくりや 自新原のまに 長やや 祿のまに
^金 春ふも いらのせに いらぬくまの せう 我のまに くら 遠房
 引野
 臺波
 あさうじ 春の いら 末は かに 我のまに くら 遠房
 遠人
 子

引野

臺波

古く
 あさひの
 目晩野
 大和
 人
 志

目晚野

大和

手野 山城 舊野郡

手勢

山城

舊野郡

^後あはれにきこりせむをわびけむかしきむる白宮 家隆
 可成 常慈野 信濃
 あはれにきこりせむをわびけむかしきむる白宮

丁巳年

信濃

楊野

板生堂

日
中のむくまはつらき移りしむくまなり

平七原

廬原

駿河

廬原郡

いやはや清くきつたものやとて所地田の春人

生松原

紙原

昔々一里の松原とていふ人々あるなり

涼しい木のわくは清くきつたものやとて所地田の春人

入野原

東勢國

道へ入るとなつたものやとて所地田の春人

泊瀬檜原

大和

城上郡

尺むらさき編みかたのくけとていふものやとて所地田の春人

二燈原

比叡

勝上郡

はるばるの山を朝やけとていふものやとて所地田の春人

新隆信
郡

トモ

千ね原

近江

大上郡

常盤のうらの松原とていふ木たけ陰のうら川 庄房

小野原

山城

愛宕郡

あさひのやけとていふ原のうらとていふものやとて所地田の春人

思田原

近江

あつたまのうらとていふものやとて所地田の春人

小笠原

甲斐

りあつたまのうらとていふものやとて所地田の春人

若松原

伊勢

三重郡

天平十二辰十月辛

伊勢國時

いやはやの松原とていふものやとて所地田の春人

所武
傳記

續後撰

此傳 名海部郡一決

雪はりのわのね原よりうらひ代へり玉原より

後倉 ちか

春日原 大和 添上郡

万葉

あいにまきき原をたきせしわねうらへり

日

みまきせし春の原をたきしわねうらへり

万葉

わらふしき原をたきしわねうらへり

美日野原

秋のねのね原をたきしわねうらへり

院 緒

陰野原 近江 鳥羽郡

いほふり秋のねのね原をたきしわねうらへり

後人 緒

将府原 東勘國

あめさのりねのね原をたきしわねうらへり

後人

ト 竹田原 山城 北伊郡

うらわす竹田の原をたきしわねうらへり

大伴 郎女

高野原 大和

秋のねのね原をたきしわねうらへり

玉野原 近江

あめのねのね原をたきしわねうらへり

曾乃原 信濃 伊那郡

けさのねのね原をたきしわねうらへり

あめのねのね原をたきしわねうらへり

綴原 山城 綴原郡

あめのねのね原をたきしわねうらへり

長月のはさのねのね原をたきしわねうらへり

後三 緒

角松原

标准

武庫那

[illegible]

武藏野原
武蔵

後多病
院下野

浮鳩原
駭河

あふれ笑ふに志あり一村にじうき鳴る原

恆嘉

猪名野原
松津

金葉に
あつとりのわのうらうらきてやれ油取のり
仲実

野路條原 近江 野洲郡

或阮野何北者只野徑之想也隨而不入

八雲抄板紙爲式并找裁之ハ皆當國入之

教方能言の志の了く懐ききん都へ夢にぞ
 望或る

或為

下元

大原

山城

乙列

萬
海
の
う
ら
に
は
は
た
し
た
る

天皇

愛宕郡

君臣正統をいふところの三つをいふ

相女

山田原

伍 度會郡

神々山田の原井柳太ふの志う成るるぬいふのさ
越前

藝

ききりこせせと郭公山田村の木の村立

西郊

① 鈴鹿川よりさき北へ向て山田の所へ時をえり

太上
天皇

主
 神の戸も山の戸に比するにふりより甚いなり
 順

順

真野 大和

城上郡

いやはやまゝ大層く白き片あゝ萩原たまりかえ

志のまゝに
はらひぬれん
基徳

基德

卷向檜原

同郡

下
まきうけいけよりるまゐられぬ思ハくさるるい
はきうのむろいもくやうめよ山むろく漬雪をう。 家お

真祁原

萬三
大分は南にありて北にありて東にありて西にありて

舎人
娘女

真野萱原 陸奥

17
 方のれまゝなる原をたゞ面新めて三つふ物を家持

三布留野原 大和 山邊郡

續生
わなつ心袖よりぬきしうぬうておれ原の雪より尋て
今昔
太鼓

二 昆陽松原 河邊 武庫 安那 一決之

はのふのつみきだんふめい道屋ぬえの松原

乃究師檜原大和
城上郡

新刊 卷向のめけ 橋原美くハ 龍う雷をミ 中あして 怒

朝原

葛下郡

たへりまのうゝとていそいでしにけり
霧しらそりそ鳴る方こそ思れぬ原は空なり
伊留

後人
之を

拾
あまふいさなつととるの物の原いふをばく
念

後
い
り
あ
え
ち
て
み
き
片
島
井
初
の
こ
に
蛇
子
喰
て
長
蛇

金糸
やきうひの羽のふれ如敷
紙と云ふる書と云ふは
源雅道

淺澤原

臣
非るいのみきい原のともるー
智い老うしおれをけく

散松原
松澤

日十
みをわろ敷ねろてもさうけさといふと
三とあつて

安達原
陸奥
安達郡

及ら丹のあはれ原の志しき公にや三つ君か

三穂松原 駿河 廬原郡

^{徳光}思家ゆき法皇宮の海より千三とて一ふれね^{宮原}

宮城原 陸奥 文成郡

^{千三}より山宮城原の下ある志の山に^{山房}

^{新立}あれいより山宮城原の下ある志の山に^{山房}

標茅原 下野

^{新立}たのちより原のさしき世の中へ限い

信支原 陸奥 信支郡

人よりいふいふ山宮城原の下ある志の山に

藤原 加賀 江沼郡 近江有同名

^{新立}世よりいふいふ山宮城原の下ある志の山に

い平野原 山城 葛野郡

い志れいれ原のめやねより山宮城原の下ある志の山に

大牧

小野御牧 常陸

^{新立}いしよりいふいふ山宮城原の下ある志の山に^{大御}

陸奥

^{後醍醐}みられのおちの山宮城原の下ある志の山に

美豆御牧 山城

^{新立}いしよりいふいふ山宮城原の下ある志の山に^{大御}

四十九 森

岩瀬松 大和

天
祐のいふは祐の郭えあらは豊いふつきの

志貴
自孝

日ハ
物部
もつゝのいそのかの時をいまでもそん山のさけり
常寂

常新

神多しのいせれ枯のふに鳥いそゝる鳴を神意まきり
 後古ふ
 夢しそ床を鳴る神多しのいせれ枯い紅葉より
 後古

岩田北
山城

山見ろれいとの栲の柵原とてや君の山路にあり
 やほろのいのとの栲はなぞくも回さむらひはあひる

生田祐

詞
君はまといふ物とけの國のつとめ持の持れろと
法胤
はの國のいふれたるの持せて麻の長ろく持の下あ

岩代松
純何

いづれのちりけいといふと夢をさすくはぬをゆとていふ事

盤手杖
栢津

後古十二
君より秋を思ふもの哉いその秋を秋めする馬角の

作杜

山城
和歌郡

新古今
いそ原さけくもやうらん枯の下ま枯深く
日永
時あ波るあやうけけの枯も風さす
後嘉永
珍政
定家

羽束竹森

乙訓郡 一統羽東石

金九
家并凡ある物ゆへるの枯のとけ氣にーはる所
顯痛

常磐松

愛宕郡

牙のあはれぬまゝの山一ヶ所を松林の下に
 まてるときは松のやうな心の中になつて了ん

片墨枯

新立三
何より
いふまに
経る
要の
材の
内を
まめ
たり
は
表式
部

部

詞
君はまとい酒物とけの國のつとめはたけられろを
法胤

續山陰公
はの國のいふれわのむせり麻のきりきり
たのりき

岩代松
純伴

いづれのちりけいとあそぶあそびはあそびとて

盤手杖
栢津

後古十二
君より秋を思ふもの哉いその秋を秋めする馬角の

作杜

山城
和東郡

新古今
いそ原さけくもやうらん枯の下ま枯深く
日永
時あ波るあやうけけの枯も風さす
後嘉永
珍政
定家

羽束竹森

乙訓郡 一統羽東石

金九
家并凡ある物ゆへるの枯のとけ氣にーはる所
顯痛

常磐松

愛宕郡

牙のあはれぬてり山一ヶはまきの枯れ枯の下葉は能く
 残るが
 りまてるときは枯のやうなつもあき中にうまてふた

片墨枯

新立三
何よりいふより程なる要の材の内をきめたり
はる式
部

部

赤山松

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

赤山松 坊日院 贈下

赤南條松 大和

手群郡

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

赤木松

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

乳森

山

愛宕郡

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

つ月讀森

伊勢

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

トナ四

赤毛木松 大隅

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

後宗 女

波紋森

河内

更野郡

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

長生 由下

鶴名平松 美作

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

浮田森

山

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

大慈城森

赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る 赤山松のりまもろり 坊日まけり 坊日る

後人 赤

新古

あめきれ松のまじりともろく移て人だのなる松の月後慶

新古

わはらまの森紅葉のちりそ下まろく冬まじり

新古

けきるさねくともけいあめきれ松うなる松の月後慶

光曾松 近江

新古

あめきれのむのいあてん時をきれ松のよのこ

新古

わくそわつ身時あよりその光の森のまじりて

け 氣色松 大隅

新古

秋らきうきれ松より移の海のおろきまじり

木松松 駿河

新古

さきあめらう人の松のまじりて

衣手松 山城

秋らきうきれ松より移の海のおろきまじり

下古

栗津松 近江

新古

笑顔あめらの松のあすは志水にやト新まじり

阿波手松 尾張

新古

あめらうきれ松のまじりて

百木松 近江 三陽郡

新古

名にわつ松のまじりて

三笠松 大和

新古

わくあめきれ松のまじりて

美豆松 山城

新古

あめきれ松のまじりて

信太森 和泉

新古

わくあめきれ松のまじりて

なげき

吹川とまよふけ美をあらわす山樹るゝ 義家

新抄上

人かろあまはゆきこの人さくらにあふの美を我と金るゝ山所

後撰四

時香あふその美けのりき君う移さふにまをさふ

ふ 不破用

義農 不破郡

千八

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

新抄上

人さ海あふの美を移るゝあふに移るゝ移るゝ

後撰四

いさふあふ美の美を移るゝ移るゝ移るゝ

木幡用

山嶺

新抄上

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

あ 達政実

道江

左九

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

下七

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

新抄上

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

三柄用

相模

左九

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

法見用

駿河

詞九

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

紀用

紀伊

下七

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

新抄上

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

白河用

陸奥

左九

あふさるぬたれ美屋より移て着るえより移るゝ

紅毛のれまねらりていんあのもろの白河実 紅毛

下細国

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

し門司実 豊前

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

し鈴鹿実 伊勢

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

し摩実 越前

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

五十二郡

し香郡 近江

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

し名取郡 陸奥

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

し宇和郡 伊豫

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

し宇和郡 伊豫

あまのけけきとねらりていんあのもろの白河実 紅毛

い思はれりともなりしにあらんはせむ

腰布 陸奥

海小いしあつらふたのりそ布はあつた

カニ都

な奈良都 大和

あまふりあけたふらぬまのやまのふりあふ
ふらぬまのふりあけたふらぬまのふりあふ
あまふりあけたふらぬまのふりあふ

難波都 楠津

じふふみふあふらぬまのふりあふ

うろ治都 山城

秋ののちふらぬまのふりあふ

く久遠都

今ふらふのふりあけたふらぬまのふりあふ

ふ藤原都 大和

あまふらぬまのふりあけたふらぬまのふりあふ

布留都

あまふらぬまのふりあけたふらぬまのふりあふ
あまふらぬまのふりあけたふらぬまのふりあふ
あまふらぬまのふりあけたふらぬまのふりあふ

あ明日香都

あふらぬまのふりあけたふらぬまのふりあふ

日
まゝの浦をめぐりてあまの都をみる
一 志賀郡

官

豐浦文長

行ふと云ふは、
此の如く、

小象宮
大和
高市郡

とらの宮にたつらん終り坂のふりて萬院

萬二
美久山宮 大和

下三才
此くつちの文戸也。人もあやめれと

トナ
日
檀原宮

やまのふりうのうほひをい富くうやをきし

九
十
樓宮
山城

秋の月をうらなひて

古野宮 大和

新代よりけりありけりいたくあるに山川とよこ

花うみだのきくまふそひてうけ文の青い眼
秀徳

^{乃執二}
 子りゆとてけき海きふんるの山吹うきふり山に
 後成

高円宮

文の袖にき衣袴きし白ひょうろゝ黄にうきとのを

續板三
やうな文は美し

高津宮
横津

形勢一

美のよ月じや思あたらふの文よ白あえ 光延

めきいさう高津の文はけをいれなるあふのともからん長方

珠城宮 大和

けみくまの文はけをいれえとくや墨々ん 三景

五 難波宮 標津

めりふふあれ文はけをいれなるあふのともからん

長柄文

けみくまの文はけをいれなるあふのともからん

の野文 山城

めりふふあれ文はけをいれなるあふのともからん

樟葉宮 小瀬宮 大和 昌子郡

けみくまの文はけをいれなるあふのともからん

ト一 ヤ山和文 山城

めりふふあれ文はけをいれなるあふのともからん

不替文

めりふふあれ文はけをいれなるあふのともからん

五 難波宮 大和

めりふふあれ文はけをいれなるあふのともからん

八 近江宮 近江 大伴

めりふふあれ文はけをいれなるあふのともからん

五 法見原文 大和

めりふふあれ文はけをいれなるあふのともからん

五 水江能野宮 丹波 一統

めりふふあれ文はけをいれなるあふのともからん

鴻宮 大和

五三 赤の文をまじはせのまゝなり人といひて世にす 允
日二 にはるのまゝのまゝなり人といひて世にす 允

九十四里

五三 泉里 山城 ねま郡

家人といひききや、世のつらき世に、そのわけ人 石川 唐成

五三 磐平里 紀伊 陸奥有田名

五三 三人といひききや、世のつらき世に、そのわけ人 後人 文

生野里 丹波

五三 院 といひききや、世のつらき世に、そのわけ人 後人 文

五三 初瀬里 大和

五三 といひききや、世のつらき世に、そのわけ人 後人 文

五三 三十市里

五三 深といひききや、世のつらき世に、そのわけ人 後人 文

豊浦里 長門

五三 白浪のまゝのまゝなり人といひて世にす 允

鳥羽田里 山城

五三 雲井といひききや、世のつらき世に、そのわけ人 後人 文

常磐里

五三 美といひききや、世のつらき世に、そのわけ人 後人 文

五三 音長里 紀伊

五三 世といひききや、世のつらき世に、そのわけ人 後人 文

小野里 山城

金二 雲れあふとてしるの知をたてし人かゝるやとて實

音羽里

後七 ことすてとてのよは初めかのかい紅きまみよ 大上 天皇

春日里 大和

八 雲りかき星は物衣しんはちきくみき

神南條里

日七 清きせしちのまきふさぎあらん秋あつのこと

桂里 山城

後八 元さゆらうの星は河上小畑のあてや月いせじん清光

吏野里 河内

新七 めとくは星のけの店志のふあはあは床は後成

後倉里 相模

後三 雲れあふとてしるの知をたてし人かゝるやとて實

神田里 陸奥 多紀郡

千十 みるちうの田のよは初めかのかい紅きまみよ

芳野里 大和

五 初めけあふとてしるの知をたてし人かゝるやとて實

比河里 相模 有陸奥日名

後二 みるせいはのまきふさぎあらん秋あつのこと

千六 ね風のまきふさぎあらん秋あつのこと

日六 月さゆらうのまきふさぎあらん秋あつのこと

玉鴻里 肥前

新七 ね浦山あふれあふれ星のけの店志のふあはあは床は後成

玉無里 國 不審

和泉
 武義
 人の方をまげと考へ
 枕せむ宿やむるの里
 ねぢナ

續古
公對波里
楊澤

はのふのみゑのまのりあめれまのり枯れそへ
信實

力野千重 山城

山吹の花もさうさうなわでの黒人いまどき
基後

大原里

大いのちのきにいせきておねほりきよき

日教
方
富
子
幸
り
炭
海
の
煙
を
し
吸
つ
た
星
野
初

栗牛墨迹

あまふみたるまじきものぞいかにふりての墨

山科屋

後拾遺
のるはちふとくたてりまゝに

卜六五
小深草里

夕れ此の秋也身にきてうらむ之を榮け里
後成

秋とてあけのあけの金持とぞ我いふるなり 意気

伏見宮

名はこれなりとて其の紅糸を本は志すなり
後人

やまの身とく多様うし其書の記のまをみ

海、ともやみまきしう、万代伏えの星に新抄する
中院
幕

菅原里
大和

うらたけに異秋きふきてしりよき君待つて

木情里
少城

山一のふたにまゐるふたつを君と申す

初日里

形七

めくは朝日の星はくさなまはたけのまゝく浦歌

蘆屋里 橋津

日

つら火のしりのまはけやてあむれ里にふ雲の

續は六

まゝるの星はるかに秋はるの月いふ

後家
橋改
内作

秋篠里 大和

形七

秋のまゝまはるる人伊勢の嶽もはれる

飛鳥里

万三

我せうちのまの星はあふるも母留あつちまらわて

金三

ありまゝのまの星のけしきあつちまらわて

佐良之奈里 信濃

續七

文妙やわさる月の星くぬくもあつちまらわて

順正
院

着馴里 大和

上六
五上

衣美のまの星はあふるも母留あつちまらわて

之箕里 山城

立別めまはるに姉をてふちまらわて

千六

義豆野里

なまゝのまの星はあふるも母留あつちまらわて

御吉野里 大和 一統武花

形七

すゝ火のしりのまはけやてあむれ里にふ雲の

續は六

まゝるの星はるかに秋はるの月いふ

氷瀨里 橋津

續拾八

年をてふちまらるる里にふ雲のまはるる

信夫里 陸奥

形七

あやめくは朝日の星はくさなまはたけのまゝく浦歌

新勅六

1

凡

百十

張

三

力主

*

L

6

卷

五

復古

木

2

Σ

大

新

1

10

1

玉毛 青柳村

君代民の公けしるにふしきしをるめ成るまじ村

三六園

「苦野花園 大和

戦勅 宇治花園 山城

昔々人の海やあふらん世にらこの秋の花をれ 巻鎮

志賀花園 近江

さ浪や志の花をのなり昔々人の知をちる 成仲

あふちのあふちの雪と人なはらうるまの花園

トナリ 五十七田

鳥羽田 山城

おほえのちの月の新まてに田もいふるなり ねま

新勅二十 小野山田

大なるよとて田内なるてよあま城いふるや 後札 羽衣

に竹田

今朝やわとてこはのきり川や竹田はあふり三あふ

後波根須蘇波田井 常陸

内く秋の止まの田井は秋田ふいのり人紅系たふる

新勅七 席田 義濃 席田那

ひら田ふじのわりのあまみそを給ふていふ思 家持

伏見田井 山城

下七
お母さんの入江の魚屋さんのやうに昇り下りし

布留早田 大和 山邊郡

形
 伊そのまゝ
 大和
 今孫より善財堂に後成女

萬事如意

五七
 月
 中、移りぬき、のど田をなぐて、くまのあけ川のせに
 あき田れき、たのい移をく、よつてあきる、く、わふら、く、黒ん

安陪田
駿河

同左
要門
駟馬
故てある田のやにわりのうけ煮いめとふて

櫻田 紀保

月三
木日
夕イ

はる田川のきよらめゆらと臨の字一と鳴より黒く

坂田 近江 坂田郡

めふ^{新五七}那やま田のつねをうやうとてなめる^{新五七}民の物^{新五七}なつく^{新五七}後成

卜京ハ
萬九千
エツクノメ井
常陸

はくたぬのりていおむるきんくの田井より今

才
飯
吉
小
田

五三
五三

五十八市

西市
山城

にの市にきいろうねてあうううーまあはあうう

日三短
煙市
大和

やまの市に就きけむたまにむすむかひたふ

仁辰市

第三十卷
 市とていふは

近江

李地第師子師老中堂代以代是子

度會の宮

そのつぎは文の結をよき者とて、如く中成

神南條神大和

秋のころにふくむの田よりふくむをきく

鹿鳴神
常陸

あまのうみのかしらをうみへにわきまをり

輕祛 大和

何れもやうに我の心の概を述べし思ふまゝ

トセテ

賀茂祐山城

おるふふれおのやうきちひ君をけぬる

ちやうどのちれに、松平や、又、はり

春日社
大和

うはらきりのすけをいふとあにうへ

葛城神

平あゝの月るせうき新へんと物なり
 惟字 為鍾

香推官

金
るるわいの戦をていふは君を破る
神武天皇

片思神
歲

ありともこのまゝなりなまき我々昌代神と習ふ

鏡宮

後援

神代より天とてめは神のまゝなる月新隆辨

新宮 山嶽

君をいづるのまを人となしめは神のまゝなるま

玉津嶋 紀伊

さうし君のまをいづるまは神のまゝなるま

け平いづるのまを人となしめは神のまゝなるま

園韓神 山嶽

らまをいづるのまを人となしめは神のまゝなるま

つ後麻神 常陸

かまをいづるのまを人となしめは神のまゝなるま

近江

あまをいづるのまを人となしめは神のまゝなるま

トミ

月讀神 伊豫

月よりの神とてめは神のまゝなるま

な七社 出江

秋のまをいづるのまを人となしめは神のまゝなるま

い結神 義農

いづるの神とてめは神のまゝなるま

大原神 山嶽

お月りの神とてめは神のまゝなるま

大宮 出江

いづるの神とてめは神のまゝなるま

越野 紀伊

有漏りいづるのまを人となしめは神のまゝなるま

不布笛杖 大和

朝然宮
伊媿

珍七隱題

玉芬

下

縣官

楊官

紙園山

口作者皇太子作健アリ
不立

三聖院創基の時東菴寺

ふもろのうしろに小松代あり
経衡

北野

ちるる神のまゝは秋にて埃ふる物や智乙

貴布祢

思局中官海上に就きて多福の人をよきかゝり時房

三輪

大和

しんぎのふねとつらつとせむのたのしみ

後ね懲れ

市室神

神よりやまじりの掬ゆふていなるふき神君けい実雄

拾六

い平野

山城

らるちのねれねきふいふふふふふふふふ

千廿

日吉

近江

神のいひうけふたのたのしみ

日廿

そゆきふたのたのしみ

拾

比叡社

神さうらのたのしみ

一言神

大和

後廿七

君といふたふたのたのしみ

拾

仁吉

楠津

めまらふふたのたのしみ

六十

釋教

附寺

泊瀬寺

大和

形後廿八

きくふふたのたのしみ

豊等寺

高寺

めつふふたのたのしみ

橋寺

河内

百十六

はらたのたのしみ

月林寺

山城

拾

昔我れうふたのたのしみ

羅波寺 攝津

いまたたきにはせと成なる人あまた寺の人と見

明日香寺

言ぬありけりきそふ身あめものさめあめもの
勢

此勅撰名所和歌為連歌用意宗碩法師抄出
之今為上下二冊下謂若野山詠花龍田
河題紅葉之類其歌不可勝計略とて二冊有
お祇珠景物者書かゝる凡連歌付今中を
讀後撰集一冊本歌々々々々々々々々々々
天氣全活定之畢お作例々々々々々々々々
つ川用之同今不載は物也錯れ漏脱事不
可加んけり予一覽之次新編大綱を

永山西宮林蔭上解

槐陰人 在

天文十三年壬午正月十日

持主梅也歌

九州大學圖書印

和漢名物考

